

# 鹽竈十福



佐々木 経二(日本画家)筆  
「鹽竈桜」

発行所 〒985-8310 塩竈市一森山一番一  
志波彦神社  
鹽竈神社 社務所  
電話 〇二二三六七-一六一(代)  
FAX 〇二二三六五-五五三〇  
http://www.shiogamajinja.jp/

## 皇室献上へ、再び海苔を作る



二月九日、本年も鹽竈神社奉獻乾海苔品評会の優賞者と準優賞者が宮司に伴われ皇居に参内、併せて東宮また各宮家へも丹精の乾海苔を献上申し上げた。乾海苔の皇室献上は、全国で宮城県だけに許されており、昭和五十四年に始まり欠年なく三十八回目となる。

しかし、この栄えある伝統行事も東日本震災直後、中止の危機を迎えていた。大津波によって海苔漁業者は生産手段のすべてを失い、次の品評会開催は絶望視されていたのだった。

その時、窮地を救ったのは、ある生産者の「皇室献上を途切れさせてはならない」との一声。言葉の背景には、震災直後に南三陸町にて海に向かって深々と拝礼せられた両陛下の御姿に感涙し、海の仕事への復帰を決めたとの思いがあった。この一声によって多くの生産者が奮い立つ。「たとえ設備が不足し海中環境が激変していても、再び海苔を作るのだ。」出品数は前年の三分の一にまで減少するも、皇室献上、鹽竈さまへの奉獻は途切れることはなく、その伝統は守られたのであった。

本年献上の後、皇太子殿下の御言葉を、東宮侍従より電話にてお伝え戴いた。

「震災復興が進んでいることを喜び、ご苦労の中で作られた乾海苔をいただくことを楽しみにしています。」  
拝受する者、記録する者、伝え聞いた献上者、皆「かたじけなさに涙こぼるる」の思いであった。

# 花まつり 四月二十四日



三月の帆手祭、七月のみなと祭と共に「塩竈氏子三祭」に数えられる花まつり。江戸時代の中頃、仙台藩領

内では早魃や洪水・疫病などが絶えず、塩竈でも町民の生活を脅かしていた為、氏子らが塩竈大神に救いを求め祈願した。すると、災害が止んだことから、御神徳に感謝するべく神輿を奉昇して町内を御

神幸したのが、花まつりの始まりと伝えられています。時に安永七年（一七七八）のこ

## 鹽竈ザクラの日 五月十日

当社境内に植生する鹽竈ザクラは、国の天然記念物に指定される貴重な品種です。鹽竈神社の社紋は、この花を図案化したもので、まさに「しおがまさま」を代表する桜といえましょう。

しかしその育成・保存の経緯は平坦なものではありませんでした。昭和十五年に国の天然記念物に指定されるも、三十四年に枯死し、一度は指

定を解除されます。

その後、結成された保存会が専門家の指導を受けつつ懸命に育苗に努めた結果、六十年に、二十年以上の成木三本が塩竈市の天然記念物に指定。さらに翌年宮城県品の品種指定を経て、六十二年に区域指定の十八本が国の天然記念物に再び指定されたのです。

当社では、開花時期にあたる例年五月十日を「鹽竈ザクラの日」と定めて、指定木の順調な生育を祈る祈願祭を斎行しております。

そもそも「弥生祭」と呼ばれ三月に行われていましたが、明治時代に太陽暦への改暦に伴い祭日が四月二十五日に改められ、ちょうど桜の時期であることから名称も「花まつり」と呼ばれる様になりました。その後、昭和六十年に四月第四日曜日に改定されて現在に至っています。

今年四月二十四日（日）の斎行。総重量約一トンの大神輿は、当日正午に二百二段の表坂を発輿され、大勢の氏子方のお供とともに市内を御巡幸し、午後八時に表参道を登り還御されます。

しおがまさま 神々の花灯り 四月十五日・十六日

## しおがまさま 神々の花灯り

塩竈の春の風物詩「神々の花灯り」（塩竈市青年四団体連絡協議会主催）が四月十五日（金）・十六日（土）の両夜、境内で開催されます。

参道は午後六時半ころからローソクの灯りだけで照らされ、神気に満ちる境内で夜桜を堪能いただけるほか、舞殿で各種芸能が上演されます。

## 第十四回 鹽竈神社観桜茶会

五月三日

境内の桜を愛でながらの野点の茶席。茶道各流派合同による鹽竈神社観桜茶会が左記の要項で開催されます。

◇主催

鹽竈神社観桜茶会 実行委員会

◇日時

五月三日（火・祝日） 午前十時～午後三時半

◇お茶券

二席一、二〇〇円（前売） 市内茶舗のほか各参加流派にて販売。

◇参加流派

表千家・裏千家・大日本茶道学会・織田流・玉川遠州流・表千家宮城県青年部・裏千家宮城青年部

◇お問合せ

事務局・滝井園茶舗 〇二二（三六一）三六一四



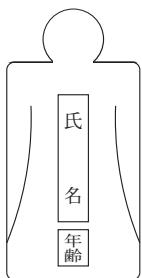
## 大祓式

六月三十日

六月三十日（木）午後五時より境内祓所において、半年の罪・穢れを祓い除く大祓式を斎行致します。

大祓を受けられる方は、当日参列いただくか、もしくは御社頭でお頒けしている「形代」に御本人の氏名・年齢を記し、その形代で身体を撫でてから息を三度静かに吹きかけてお納めいただきます。

また夏越の大祓では、志波彦神社前で「茅の輪くぐり」を行うことができます。これは茅草で作られた輪の中を八の字に三回くぐって穢れを祓うもので、「水無月の夏越しの祓する人は千歳の命のぶといふなり」の古歌を唱えながら行います。



### 天皇陛下より 幣饗料御下賜

天皇皇后両陛下には三月十六日から十八日にかけて、宮城県に行幸啓あそばされ、東日本大震災の被災地を訪ねられました。

沿岸被災地である石巻市や女川町では、震災で全工場が壊滅した水産会社や、市民交流施設などにお運びになられています。

両陛下が宮城県を慰問な

### 就任の挨拶



志波彦神社  
鹽竈神社

権宮司 野口 次郎

春暖の候となり、氏子崇敬者の皆様には益々ご清祥にてお過ごしのことと拝察申し上げます。

此の度三月二十日付をもちまして神社本庁より志波彦神社 権宮司に任命されました。

延喜式内名神大社志波彦神社・奥州一宮東北総鎮護鹽竈神社という、古来より朝廷の

れるのはこれで五回目。

この度の行幸啓に際し、天皇陛下より当社に幣饗料の御下賜があり、十八日、御両社にて謹んで幣饗料御奉奠奉告祭を斎行致しました。

### 新責任役員就任

三月二十一日に当社の責任役員の任期が満了したことに伴い、新たに役員を選任がなされました。

同月三十日に御両社にて就任奉告祭が斎行され、宮司より左記の方々へ委嘱状が交付されました。

志波彦神社 責任役員  
鹽竈神社

- 阿部 久壽 (重任)
- 横田 善三郎 (重任)
- 阿部 勘九郎 (重任)
- 佐浦 弘一 (重任)
- 鈴木 雄一 (重任)
- 権宮司 野口 次郎

のと畏み奉り、更には歴代宮司をはじめ諸先輩、神社役員・総代の皆様そして氏子崇敬者の方々のご教導のおかげと、衷心より感謝申し上げます。

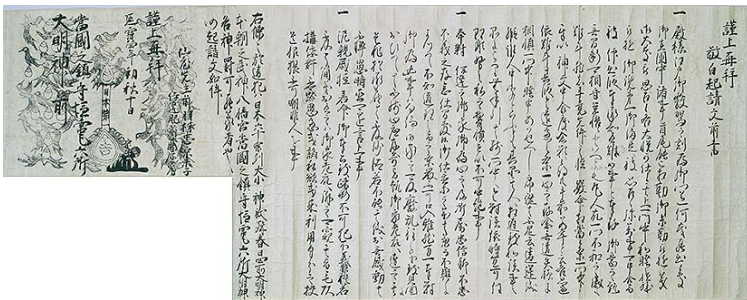
まだまだ能力見識の足らざるを自覚自認しておりますが、ひたすら大神様の御神威を仰ぎ御加護を祈念し職務に邁進、宮司を補佐して、職員と一丸となつて御神徳の発揚と御社

頭の繁栄のため微力を尽くしてまいる所存です。尚一層のご指導ご厚誼をお願い申し上げます。就任の挨拶と致します。

### 資料紹介 伊達宗房起請文

起請文は、神仏に対する誓約を記した文書で、誓約事を記した前書と誓約の対象となる神仏の名をあげた神文の部分からなり、神文は牛玉宝印と呼ばれる各寺社より発行された護符の紙背に記されます。起請文に鹽竈の大神の名をあげた早い例としては、正応

註上毎行  
設有起請文前書



四年(一二九一)の坂上国長起請文(称名寺蔵、神奈川県立金沢文庫保管)が知られており、この後、伊達氏の分国法「塵芥集」や蒲生氏郷らの起請文(何れも仙台市博物館蔵)などから中世末には奥州の鎮守として広く信仰されたことがうかがわれ、近世には更に多くの例がみられます。

本資料は、二代藩主伊達忠宗の子で宮床伊達氏の祖である伊達宗房(一六四六〜一六七〇)により、延宝四年(一六七〇)に納められた起請文で、一門相和して伊達家のために忠義を尽くすことが誓われており、誓約を違えた場合は、日本国中の神々、特に「当国之鎮守」である鹽竈大明神の神罰をうけるとされています。伊達騒動として知られる御家騒動のうち四代藩主綱村が執政面でも自立し始めた頃の起請文で、鹽竈神社への信仰を伝えるとともに、歴史的にも貴重な資料といえるでしょう。なお、神文の料紙には那智瀧宝印が用いられていますが、ほかに鹽竈宮牛玉宝印を用いた例も知られています。

特別寄稿

日本の美しい国柄



参議院議員  
比例代表(全国区)  
山谷 えり子

わが国は、平和と自由を希求し、今日まで歩みをすすめてまいりました。同時に世界有数の経済大国として、たゆまぬ努力のもと、焦土の中から着実に復興・発展を成し遂げてまいりました。

団体からいただいた時代でした。

当時、私の父・山谷親平は、国会担当の政治部記者をしていました。その後、ラジオやテレビでパーソナリティとして働きましたが、戦時中は志願兵として飛行第六四戦隊、いわゆる加藤隼戦闘隊のパイロットとしてジャカルタと海南島、ビルマで戦い、三度撃墜されながらも生還、体中に機銃掃射を受けた弾の破片を残し、関節のあちこちが曲がらぬ傷痍軍人の体で戦後の復興を亡き戦友たちに誓いながら生きぬきました。

傷痍軍人の娘として

私は、終戦から五年後の占領下にあった時代に東京で生まれました。世の中はまだ貧しく、栄養不良の人も多く、衣類や脱脂粉乳などのララ物資(アメリカから日本への援助物資)を、アジア救済公認

つりの人生。国と平和を守り、よい社会にしなければ亡き戦友たちに申し訳ない」と静かな口ぶりで語っていました。

毎日のように戦友を失っていく南方での日々、将棋をさしていた相手が出撃した一時間後にはもういない、昨日、隣に寝ていた戦友がもう永遠に帰ってこない。父はやりきれない悲しみを語り、だからこそ生ある間は、自分を差し出し、自分の役どころを果たし続けなければいけないと、仕事に、社会奉仕に、家族や友人を幸せにすることに真剣でした。心をつくし、日々懸命に過ごし、子や孫のために「平和と繁栄」を築き、まさに生きることを貫いた世代であつたと感じます。

日本独自の民主主義

敗戦直後の昭和二十一年一月一日、昭和天皇が初めて国民にむけて詔書を発布されました。「我が国は、今国難の中にあり」で始まる冒頭のお言葉の後には、明治天皇が出された五箇条の御誓文を全文引用されています。

それから、三十一年経った昭和五十二年八月二十三日の記者会見において、陛下は御

誓文を引用されたことについて記者から問われると、「当時はアメリカその他諸外国の勢力が強く、日本が圧倒される心配があつたので、民主主義を採用されたのは明治天皇であつて、日本の民主主義は決して輸入のものではない、ということを示す必要があつた。日本の国民が日本の誇りを忘れないように発表することを希望した」と述べられました。

日本が主権を回復するまで八年間に及ぶ占領下時代こそありましたが、日本の美しい国柄は、悠久の歴史と共に今日に至っていると感謝しています。

これからの日本

安倍総理が東日本大震災後

塩竈まとい保存会  
帆手祭で成果を披露

纏を愛する市民の集い「塩竈まとい保存会」は三月十日、帆手祭発興祭で纏振りを奉納しました。

会員らは、川崎睦会(山岸英一代表)の指導のもと稽古をつみかさね、今回大勢の参加者が見守るなか日頃の稽古の成果を披露しました。



に訪問したインドネシアの学生たちが『桜よ、大好きな日本へ』という日本語の歌を合唱して、我々日本人を励ましてくださいました。

「桜よ 咲き誇れ 日本のも真ん中で咲き誇れ、日本よ咲き誇れ 世界の真ん中で咲き誇れ、私よ咲き誇れ この道の真ん中で咲き誇れ」

日本そして日本国民の歩みは、世界から信頼されていると思えます。平和と繁栄を享受しているわが国は、未だ病や戦禍、貧困など厳しい状況下にある世界の人々に貢献できる立場にもあります。これまで先人たちが歩まれ、培ってきた陸み和らぎの精神の道をまっすぐに歩んでまいりたいと思えます。

なお、同保存会は、週末を中心に稽古を実施しており、飛び入りの参加・入会を歓迎しているとのこと。

講社だより

飯坂千人講社祭

去る一月十日、福島県飯坂より新野吉美講長以下三十九名の講員が参列され、年始で御社頭が賑わうなか飯坂千人講社祭が盛大に斎行されました。

祭典後、御神前にて永年継続講員に対し表彰が行われましたので、左記に御芳名を紹介いたします。

◇六十年表彰

堀江 悦子・佐々木 春子  
佐柄 雄将・石渡 政夫  
安藤 勝美・安藤 信雄

◇五十年表彰

蒲倉 信六・島津 一郎  
島田 龍男

ご結婚

おめでとう

ございませす

二月

神奈川県 菅原 信悟  
黒川郡 菊地 由加里

(以上一組・敬称略)

◇四十年表彰

菅田 万平・小野 富美子

◇三十年表彰

名和 良孝

◇二十年表彰

紺野 良則・石田 良夫  
遠藤 光雄・添田 義治

◇十年表彰

今野 春彦・佐藤 直喜

銅板奉納者芳名

平成二十七年  
十二月

愛媛県 竹内 栄二  
ほか一〇名

平成二十八年  
一月

石川県 東 外喜夫  
ほか一六七名

二月

北海道 松本 哲也  
ほか九〇名  
(敬称略)

鹽竈会  
会員神社紹介



全国には鹽竈の社名を冠し、御祭神や御神縁を同じくするお社が百数十社あります。当社に本部を置く「鹽竈会」はそれらの神社の連絡・交流を図り大神様を景仰すべく平成四年に設立されました。今回は、栃木県矢板市に鎮座する鹽竈神社を御紹介いたします。

鹽竈神社

(伊藤史展宮司)

鎮座地 栃木県矢板市上町  
御祭神 塩土翁命  
武甕槌命



宮城県塩竈市  
志波彦神社  
鹽竈神社

栃木県矢板市  
鹽竈神社

由緒

経津主命 (配祀)  
天照皇大神  
素盞鳴尊  
別雷神  
火具土命  
少彦名命  
大物主命

当鹽竈神社が鎮座する矢板市には「塩田」「高塩」など塩に関係する地名が多く、内陸地ながら塩水が湧き出す地域があつて、かつて塩土翁命が人々に製塩をはじめ安産・畜産の技術を授けたと伝えられます。

当社はその製塩が行われた場所「須釜」にもと須釜社として祀られ、のち転じて鹽竈神社となり、天正八年(一五八〇)に現在地に遷座されました。

明治四十年には、矢板地区にあつた神明宮・八坂神社・琴平神社・加茂神社・箒根神社が合祀されて、矢板を代表する神社になっていきます。旧村社。

明治維新の立役者・勝海舟が篤く崇敬をよせたことで知られ、彼が世を去る一月前、病床にあつて筆を執り奉獻した社号額が伝わっています。

# 第六十八回 奉獻乾海苔品評会



去る一月十一日、当社を会場に第六十八回奉獻乾海苔品評会が開催されました。審査委員長の報告によると、今漁期は全国的な暖冬の影響で、一部の海苔に色づき不足が見られたものの、生産者の努力により優秀な乾海苔に仕上がったとのこと。

今回出品された全て百十三点の製品は、厳正な審査を経て左記八十七点が入賞しました。(敬称略)

## 入賞者氏名

優賞 (宮城県知事賞)

浦釜市所 千葉 眞澄

準優賞 (塩竈市長賞)

矢本 三浦 一郎

吉等賞 (東松島市長賞ほか)

浦釜市所 内海 健靖

代ヶ崎浜地区 齋藤 喜男

石巻湾 相澤 栄喜

矢本 阿部 明

丹野 侃 太

三等賞 (全国漁業協同組合連合会長賞ほか)

代ヶ崎浜地区 齋藤 吉勝

赤間 竹晴

石巻湾 相沢 大仁

津田 阿部 雄美

津田 阿部 重雄

津田 阿部 雅彦

坂本 津田 寿

技術賞 (東北海苔問屋協同組合理事長賞ほか)

宮戸 門馬 将行

花浜地区 寺澤 善二

東宮浜地区 大石 顯

要害地区 佐藤 正美

仙南支所 木村 清一

参等賞 (アイサン工業株式会社賞)

浦釜市所 内海 洋志

代ヶ崎浜地区 相澤 良弘

宮戸 石田 喜一

櫻井 信英

門馬 庄松 雅則

門馬 幹彦 博幸

花浜地区 寺澤 春彦

草浜地区 伊丹 幸一

仙南支所 菊地 幹彦

仙南支所 穴戸 敏浩

代ヶ崎浜地区 片倉 順平

浦釜市所 内海 俊彦

宮戸 内海 勇一

門馬 隆

門馬 康成

千葉 政敏

鈴木 享

花浜地区 鈴木 順治

遠藤 繁

奨励賞

浦釜市所 阿部 義彦

浦釜支所 阿部 三十一

七ヶ浜 佐藤 栄二

産業功労賞

佐藤 栄二

七ヶ浜 ほか十一名

吉田浜地区

赤間 善勝

矢本 櫻井 健太

仙南支所 木村 宏

## 節分祭追儺式

一月三十一日と二月三日、一年の厄災を消除する節分祭追儺式が斎行されました。両日とも門内を埋め尽くした大勢の参拝者たちは、年男・年女が撒く福豆を競って手にしていました。

節分祭の斎行にあたって御協力を賜りました御来賓・奉仕者代表、ほか福引景品の協賛をいただいた皆様の御芳名を紹介致します。(敬称略)

◆御来賓

(二月三十一日)

仙台伊達家第十八代当主

塩竈市長 伊達 泰宗

塩竈警察署 佐藤 昭

塩竈警察署 遠藤 敏

(二月三日)

塩竈警察署 青沼 信之

副署長

◆年男・年女奉仕者

(一月三十一日)

今野 大聖・佐藤 千鶴子

以下一四四名

(二月三日)

佐藤 知樹・山岸 夕貴

以下二〇七名

◆福引景品協賛者

(敬称略・順不同)

小島浦銚店・郷家第三歯科医

院・増友商店・丸勝会館・佐

浦・稲庭うどん瀧さわ家・漢

方の塩釜芍薬堂・えびすや釣

具店・菅原園茶舗・仙台屋製

麵所・阿部勘酒屋連店・キクニ

大場酒店・鈴忠・丹六園・阿

部善商店・白寿殿・日野不動

産建築設計事務所・新桜井電

機・ヨークベニマル塩釜店・

渡辺米穀店・矢部園茶舗・い

な長・鎌田稔・莫匠榮太楼・

大黒寿司・北浜フードセン



所・塩釜ガス・松野・春日屋商店・こんきや・今野海苔店・勝山水産・佐々勤商店・ヤマス蒲鉾店・塩釜地方卸売市場・八百大・たかせさと美容室・コカコーライーストジャパン・仙台味噌醤油・松田製粉・でん六・日本住宅・和食の小島・松島蒲鉾本舗・峰屋食品・マルマ佐々木水産・顔晴れ塩釜・水野水産・クラシエ薬品・救心商事仙台営業所・大和生物研究所・ムサシノ製菓・一ノ蔵・バイタルネット・日本クリニック・クローラ工業・翠松亭・松和産業仙台営業所・小西美術工芸社・宮本産業・宮本商店・東陽防災設備・塩釜市商業協同組合・大友義雄・ホテルニュー小松好風亭・カネマス伊藤商店・和風スナックつた・シヨップサトー・直江商店・福寿司・ふとんの中野・阿部平蒲銚店・第一生命保険・進藤正毅・大泉光浩・阿部電工・ビーシック

### 参拝記録

昨年十二月～二月にかけて、当社を正式参拝された方々を左記に御紹介いたします。(敬称略)

平成二十七年

十二月

十六日 元衆議院議員(次世代の党) 西村真悟氏

平成二十八年

一月

三日 参議院議員(自民党) 愛知治郎氏 以下愛知会三十名

六日 岩沼市・竹駒神社 千葉博男宮司

〃 仙台市・宮城縣護國神社 田中光彦宮司

七日 陸上自衛隊第二十二普通科連隊長

兼多賀城駐屯地司令 二瓶恵司二等陸佐 以下隊員十五名

八日 塩釜ロータリークラブ 四十五名

二十日 宮城県神道青年協議会

二十六日 責任役員・総代会同会 「大寒禊研修会」参加者 二十名

二月

十三日 愛知県・岡崎青年会議所 六名

二十二日 秋田県・八幡神社 佐藤茂之宮司

二十三日 新潟県自衛隊援護協力会 以下氏子総代十三名

二十六日 大竹和夫会長 以下三十六名

二十三日 新潟県自衛隊援護協力会

二十六日 商工会議所東北ブロック会議・運営研究会 三十名

### 博物館だより

#### 開館五十周年記念新春特別展

#### 「鹽竈神社の刀剣」終了

昨年十一月に迎えた当館の開館五十周年を記念し、元旦より二十四日間にわたって開催した「鹽竈神社の刀剣」は、延べ三、四一八名の方々に観覧いただき盛会裏に会期を終

えました。

今回の展示では、来国光(重要文化財)をはじめ鹽竈神社に奉納された刀剣を公開。鹽竈神社に寄せられた人々の信仰と、刀匠たちの歴史にスポットを当てました。

会期中、週末を中心に、現役の刀匠や学芸員による展示解説を行い、わが国がほこる日本刀の啓蒙普及に寄与できたことと思います。



### 養成所通信

#### 第七十二回卒業式挙行

三月二十五日、当神職養成所第七十二回卒業式が挙行されました。

今回四名の卒業生は、父兄や御来賓の方々をはじめ講師が見守るなか、これからの希望を胸に式に臨んでいました。下記に卒業生の①進路、②今後の抱負を紹介致します。

門 辰弥(北海道)

- ①西野神社(北海道札幌市)
- ②当養成所で学んだ事を活かす事はもちろん、奉職後も勉学に努め、早く一人前の神職になれるよう努力して参ります。

木村 和樹(岩手県)

- ①鹽竈神社(福島県会津若松市)
- ②養成所で培った経験をもとに、一人の神職として神明奉仕に精励し、奉務神社の御神徳発揚をはかりたく存じます。

### 神社ホームページを刷新

当社の情報を氏子崇敬者へ発信している当社のホームページ。

平成十六年に新設してより久しく、鹽竈神社式年遷宮・志波彦神社遷祀百四十年事業も終え御社頭の写真を差し替えるなどの必要から、この度、ホームページの装いを新たに致しました。

広く社会に普及しつつあるスマートフォンなど携帯端末画面にも対応しており、御参拝の方々に参加いただけたかと思えます。

小間 峻司(北海道)

- ①八剣八幡神社(千葉県木更津市)
- ②二年間学ばせて頂いたことを活かしながら、これから神職として社会人として感謝の気持ちをしつかり持って奉仕に励んでいきたいと思えます。

船形 将平(宮城県)

- ①出羽神社(宮城県加美郡)
- ②養成所を卒業して、晴れて一神職として世に出ていく。このことを自覚し、二年間で学んだことを活かして頑張っていきたいと存じます。

# 国家安泰 五穀豊穣 家内安全

祭事暦 (四月から六月まで)

毎月

一日 朔 日 祭  
曲木神社月次祭

六日 御釜神社月次祭

十日 鹽竈神社月次祭

二十九日 志波彦神社月次祭

四月

二十四日 鹽竈神社花まつり

二十九日 昭 和 祭

五月

八日 氏子崇敬会春季大祭

十日 鹽竈サクラの日祈願祭

中旬 御神田御田植祭

六月

三十日 夏越 大祓式

# 安産祈願 海上安全 大漁満足

## 消防確認訓練実施

二月二十九日、消火技術の向上を目的とした消防確認訓練が実施されました。

当社では例年、一月の「文化財防火デー」にあわせ大規模な総合消防訓練を行っていますが、積雪のため中止となった本年は、塩釜消防署(赤間正博署長の指導のもと職員を対象に確認訓練を実施する」ととなりました。



放水銃の実放水

当日は神職や巫女・雇用員らが、消防署員から火災発生時の対応や境内の消火設備の配置について講義をうけ、実際に避難誘導や屋外消火栓の操作などを体験。火災防護と文化財愛護の意識を高めました。

## 文芸欄

娘の仕草我に重なり春の雁  
凧揚げて空の鼓動をたしかめる  
色褪せの扁額並べ風光る  
どんと火のくろこ餅を持帰る  
団子屋の今もありけり福寿草  
追伸に本音のみゆる余寒かな  
福寿草長子の妻でありし頃  
眠る児はいつも万歳福寿草  
胸底の泥をも流す雪解かな  
津軽野を知らぬ長押の喧嘩凧

神野 礼モン  
佐藤 みね  
太田 サチコ  
渡辺 智賀  
辻田 よし子  
佐々木 和子  
横田 みち子  
大友 セツノ  
上田 由美子  
山田 桃晃

## タイムトラベル

塩竈の今むかしをたどる  
写真展開催

二月二十八日、当社氏子青年会(千田忠一会長)をはじめ塩竈市民の各青年会で構成される塩釜市青年四団体連絡協議会は「しおがまタイムトラベル写真展」を当社をふくむ市内三ヶ所で開催しました。

当社では絵馬殿を会場に、境内や神輿祭の古写真を多数展示。志波彦神社の社殿が造営される前の社務所「望洋閣」や、西廻廊前にあった神饌所など、現在は見ることでできない境内の様子に、多くの参拝者が熱心に見入っていました。

市内の会場となった、本町



の塩竈市杉村惇美術館と旧多びや旅館でも、過去から現在にかけての塩竈の街並みや景観の移ろいが写真を通じて比較されました。

参拝・見学を終えた参拝者は、東参道入り口で催された「塩釜おでん」の屋台で腹ごしらえをするなど、塩竈の魅力を堪能していました。

## 人事異動

昇進(三月二十日付)

権宮司 野口 次郎

〃(四月一日付)

彌宜 小野 道教

退職(三月三十一日付)

巫女 阿部 麻里奈

〃 種市 亜理沙

〃 山口 栞

## 赤芸窓

表紙の日本画は現在、社務所の応接間に飾られているものです。

京都・日本画壇の気鋭、佐々木画伯の筆になり、鹽竈サクラの華やかさが、精緻な筆致で表現されています。(岳)